

**製品名: MAGE-A5 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab13593**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	36kDa

**抗原情報**

遺伝子名	MAGEA5
別名	MAGEA5; MAGE5; Melanoma-associated antigen 5; Cancer/testis antigen 1.5; CT1.5; MAGE-5 antigen
遺伝子 ID	4104.0
SwissProt ID	P43359
免疫原	抗血清はヒト MAGEA5 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 68-117

**背景**

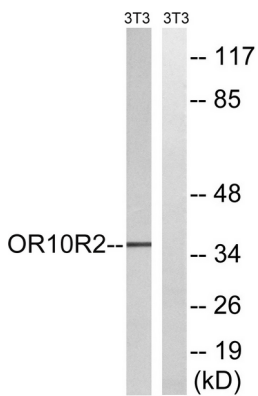
この遺伝子は MAGEA 遺伝子ファミリーのメンバーです。このファミリーのメンバーは、互いに 50~80% の配列同一性を持つタンパ

ク質をコードします。MAGEA 遺伝子のプロモーターと最初のエクソンにはかなりの多様性が見られ、この遺伝子ファミリーの存在により、同じ機能を異なる転写制御下で発現できることを示唆しています。MAGEA 遺伝子は染色体位置 Xq28 に密集しています。これらは、先天性角化異常症などのいくつかの遺伝性疾患に関連しています。この MAGEA 遺伝子は、他のファミリーメンバーと比較して C 末端が切断されたタンパク質をコードしており、この遺伝子は擬似遺伝子であると解釈することもできます。この遺伝子レコードでは、タンパク質は文献で定義されている想定されるタンパク質コード状態に従って表されています。この遺伝子と上流のメラノーマ抗原ファミリー A、10 (MAGEA10) 遺伝子の間には、リードスルー転写が存在します。[機能:不明ですが、腫瘍の形質転換や進行に関与している可能性があります。]類似性:1つの MAGE ドメインを含みます。組織特異性:黒色腫、頭頸部扁平上皮癌、肺癌、乳癌など、さまざまな種類の腫瘍で発現していますが、精巣以外の正常組織では発現していません。、

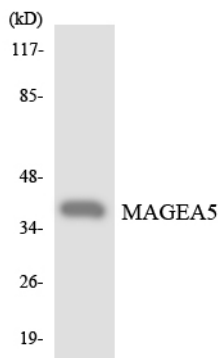
## 研究分野

-

## 画像データ



MAGEA5 抗体を用いた NIH/3T3 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



MAGEA5 抗体を使用した K562 細胞の溶解物のウェスタン ブロット分析。

MAGE-A5 ポリクローナル抗体を用いた 3T3 細胞のウェスタンブロット解析

